

提出された意見と市の考え方

No.	ジャンル	提出された意見の概要	市の考え方
1	整備手法	古墳のためには、頂上へ登る段は作らないのがよいと思うが、どこからでも上がると墳丘が傷むので、やむをえない。なるべく見えないところになるべく狭い段にしてください。	墳丘復元部を利用して遺構や周辺景観に配慮し、訪れた人が古墳を歩き、間近で見学できるような階段や回遊路を整備します。
2	整備手法	安全に後円部、前方部を歩いて古墳を体で感じるができるようにする。	
3	整備手法	古墳の頂上への道と古墳の中腹を一周できる道を設ける。そして、濠等の周囲を整備して小さな古墳公園とする。	
4	整備手法	十数年前に垂水の五色塚古墳を見たとき、これが当時の造られた古墳の姿かと感銘を受けました。昨年見つけた今城塚古墳も素晴らしい埴輪が沢山あり、大きさも大きく、さすが継体天皇陵だと思いましたが、古墳本体はやはり木々に覆われていて、前方後円墳がどのように造られたのか十分認識出来ませんでした。整備イメージのように徳島の宝である洪野丸山古墳を(周濠も含めて)造られた当時の姿にする。	葺石や埴輪の残存状況や、周濠部分の高低差の問題から、これらの全体復元は難しいと考えています。部分復元の可能性も含め、実施設計時に最終的な整備手法を決定します。訪れた人が古墳の構造を理解しやすいように、模型や説明板、ガイダンス施設での解説を充実させます。
5	整備手法	墳丘の削平、改変された部分ではできる限り復元する	削平・改変された部分の復元や樹木の整理等によって、訪れた人が前方後円墳の形や構造を理解しやすいような整備を目指したいと考えております。前方部に関しては、発掘調査の成果と整備による近隣への影響を踏まえて整備方法を決定します。
6	整備手法	ぜひ整備イメージ(その2)で整備計画を進めてください。発掘調査によって復元根拠が十分得られない場合でも、年代墳形の似た他の古墳を参考にして整備し、その旨を説明に書けば、理解は得られると思います。	
7	整備手法	埴輪ですが、古墳本体に設置できないのであれば、古墳の模型の設置場所等に、実物大のテラコッタ等、見学者が見て触れることのできる埴輪を置いてはどうでしょうか。そして、破片しか出土していない形象埴輪についても、模式図等によって作成し、置いて下されば、見学者も興味を持てるのではないかと思います。	円筒埴輪や朝顔形埴輪は、現地への実物大レプリカの設置やガイダンス施設での出土品の展示を検討しています。また、形象埴輪は他地域での出土事例を参考に、レプリカやイメージ図を作成し、ガイダンス施設での展示を検討しています。
8	整備手法	後円部東側、旧民家跡地に点在するブロック塀、石垣等は取り除くべきである。	ブロック塀・石垣など、後世の工作物については除去します。
9	ガイダンス	余分な説明板、注意板は置かず、古墳として感じることができるよう、説明などは別の近くの場所を設けて学習できるようにする。	見学の利便性と景観保持の両面を考慮し、説明板や案内板を設置します。また、洪野公民館をガイダンス施設として活用したいと考えています。
10	公有化	土地公有化を進めてください。また、その為の募金を始めると、広報を兼ねられるのではないのでしょうか。	平成26年度から順次公有化を進めており、平成29年度に公有化完了予定です。
11	公有化	後は土地公有化事業次第で決まっていくような感じがする。	
12	公有化	先ず第一に丸山古墳に係る土地の公有化の推進を。	
13	公有化	前方部に所在する墓地は所有者の方と粘り強く話し合いを進め、移転してもらえるよう努力をお願いします。やはり、景観を損ねています。	地権者の方との協議を継続したいと考えています。
14	樹木の整理	古墳の形態がわかる程度まで樹木を整理(すべて切るのではない)	古墳上の樹木・竹については、遺構保全・活用・景観保護の3点からゾーニングしたうえで樹木の整理・管理を行います。また、古墳の遺構に影響を及ぼす可能性のあるものや、古墳の形をわかりにくくしているものについてはゾーニングに関わらずすべて伐採します。
15	樹木の整理	隣接の竹藪も大きく伐採しなければ風が吹くたびに竹の葉がふりそそぐので大きく整理が望ましい。	
16	樹木の整理維持管理	現状では、古墳全体に樹木・雑木・雑草が繁茂、とりわけ、中央部にある巨木等は古墳の全体像を不明にしており、著しく景観を損ねている。これらの雑木は、将来古墳の崩落等につながる恐れがあり、全て伐採すべきである。	
17	樹木伐採維持管理	まずは古墳の周辺環境を整える。市民参加と各保勝会のメンバーで樹木や竹など、古墳に影響を及ぼしているものを除けるようにし、土地関係者と丁寧に話し合う。	
18	発掘調査	後円部埋葬施設の発掘調査への期待は大きい。	
19	発掘調査	発掘調査を急ぎ、埋蔵品の展示説明会をする。	整備に関する情報を集めるために必要な発掘調査を順次実施していきます。出土遺物の展示については関連施設において随時実施したいと考えております。

20	説明板 パンフレット	古墳までの道路標識の設置、現地の案内板、説明板も大切。現在の神社前の古墳案内図は一考の必要性があります。又、古墳に対する理解を深めてもらうために、啓発冊子やパンフレットの作成も大切です。	道路標識や説明板については、整備事業の中で設置する予定です。また、パンフレットに関しては現在『渋野丸山古墳周辺散策マップ』を古墳や渋野公民館などに設置しています。今後も改訂を行いながら、引き続き新しい情報を発信していきます。
21	説明板 ガイダンス	古墳ができた5世紀当時の想像できる川筋、陸地、居住地なども展示説明の学習が必要	
22	周辺活用	説明板は丸山古墳のみならず関連する地域の説明を加えてはどうか。(例:小松島の新居見遺跡等)	
23	周辺活用	ゆくゆくは、近くにあるたくさんの円墳も含めて「大きな古墳公園」となれば・・・。	
24	周辺活用	丸山古墳だけでなく、マンジョ塚、新宮塚、天王の森古墳等、渋野古墳群公園として広域的にとらえることが大切です。	
25	周辺活用 説明板	近隣にも古墳があるが、案内がほとんどない。近くの古墳も見られるよう案内説明を工夫して頂きたい。(例:古に思いを馳せる道コース)	
26	周辺活用 説明板	まわりの古墳、神社の説明もしなければならない。	
27	周辺活用	阿波史跡公園(八倉比売神社、矢野古墳、宮谷古墳など)との連携やあずり越と組み合わせたハイキングコースの検討は如何でしょう。	市内の関連資源をつないだ有機的な活用を推進します。
28	活用全般	丸山古墳の出土品の展示、古墳見学会、研修会等の継続的な実施も、古墳に対する理解を深める方策であると思います。	
29	活用全般	体験学習の重要性。以前に出前授業で町内で拾い集めた数個の土器のかけらを児童に手渡したところ、初めて手にした子どもばかりで、実に喜んでくれたことがありました。「聞く」「見る」だけでなく、直接「手にする」ことの大切さを子供より教えてもらったことがありました。	世代を超えた学習・交流の場づくりや、古墳の総合的な活用を地域活性化を目的に、さまざまな活用事業を定期的実施したいと考えています。また、出土品については今後考古資料館などの関連施設で出土遺物の展示を行うほか、学校教育等での活用を行います。
30	活用全般	予算がどのくらいつくのかの問題があるが、渋野丸山古墳の存在のPRを市民に意識づける必要があるように思う。地域の人と公民館を結びつけるイベント(古墳まつり)などを行い、多くの人々が古墳の良さに気付けるようにすることが大切だと思う。	活用事業の参考とさせていただきます。
31	組織づくり・ 活用	ソフト面は素案の通りで良いと思われます。ガイドボランティアの養成には時間もかかり、保勝会のメンバー及びボランティア希望者の発掘も必要で、並行して実施が望まれるのではないかとされる。体験型となれば、土器の造り方など国府の考古資料館と共存できればと思われる。	
32	組織づくり	文化財の啓発、保護、伝承等には地域社会との密接な連携が極めて大切である。渋野町にはすでに文化財保勝会があり、古墳のみならず町内文化財の維持管理等に活躍し、広く町民より感謝されています。ただ、活動の組織に関しては町内関係者だけでなく、広く多くの方々の参加を得て、地域ぐるみ、町ぐるみで文化財の保護・啓発活動を推進する組織作りも大切です。	地域住民で組織される渋野町文化財保勝会による古墳の環境整備活動は、史跡の環境保全の面からも重要であると考えています。今後は、地元を中心とした保勝会の活動だけにとどまらず、地域を超えて人々が古墳に関する活動に参加できる仕組みや組織作りの支援を行っていきたくと考えています。
33	組織づくり	NPO法人で古墳や歴史に関係した団体との交流も大切	
34	広報 組織づくり 維持管理	今行われている古墳の下草刈りなど、保勝会や地域の人だけでなく市民が参加できるように、FMラジオ(徳島)から発信をしてもらって参加者をつくるような方法	
35	維持管理	下草などを除去し芝生を育てる。	
36	維持管理	先日現地を見たが、草が生い茂り立ち入ることができない。このようなことでは見向きもしなくなるのではないか。ぜひ1日も早い整備を待っている。	草刈りなどの維持管理については、管理団体である徳島市と地元団体で分担して実施していく予定です。このためにも市民団体の育成支援やそのコーディネートを行い、サポートを続けていきたくと考えています。また、広場や墳丘の緑化は芝生や植生シートなどを活用し、地下遺構の保護と景観維持につとめます。
37	維持管理	完成後の日常的維持管理はしっかり組織化して1~2年後に廃墟化するのは絶対避けるべし。	

38	広報	古墳の存在をインターネットやSNS (twitter、Facebook) などITを利用した行動も大切	情報発信は、パンフレットやチラシ、ポスターのほか徳島市ホームページ、公式SNS、広報、市政だよりなどを活用します。
39	学校	隣の動物園や植物園に来る小学生には必ず古墳公園により、歩き、徳島の宝である前方後円墳という大きなお墓があったと同時に、徳島のこの地の近くに巨大な権力が存在したと云うことなどを学習してもらおう場にする。(バス等の駐車場が必要)	現在、地元小中学校では古墳や周辺の文化遺産を活用した授業が実施されています。また、地元小中学校に限らず、学校教育のなかで古墳をはじめとした地域の文化遺産を活用し、次世代を担う子供たちへの歴史学習の機会を充実させたいと考えています。
40	学校	次世代を担う子供たちの文化財に対する関心・理解を深めるためにも、学校教育との連携が重要である。地域には洪野小学校、南部中学校があり、地域を代表する文化遺産である古墳群、丈六寺、動植物園において、課外活動が実施されているが、文化財に対する理解や伝承の上からも大切なことであると思います。	
41	トイレ	トイレも必要である。なぜなら現在は公民館は閉鎖時も多く、整備後は見学者の要望には応えられない。もし公民館に常時使用できるトイレがあるならば別です。	洪野公民館には屋外トイレが設置されており、これを活用したいと考えています。また、駐車場に関しても、洪野公民館周辺の駐車場、八幡神社横の町営駐車場を利用する予定です。ガイダンスは、これまで拠点施設として利用されてきた洪野公民館を活用します。
42	トイレ 交通アクセス ガイダンス	トイレ・駐車場・ガイダンス施設は計画されているが、特に充実すべし。	動物園方面行きの市営バスは古墳前を通過し、丈六寺南が終点となっています。また、古墳の最寄りのバス停は公民館前の「洪野」停留所となっています。
43	交通アクセス	アクセス=市バスの動物園ー徳島駅を丸山古墳まで延伸出来ればと思う。	
44	交通アクセス 道路	自転車で動物園から古墳を見て市街地へ周ることができる様にする。(自転車専用道の設置)	古墳へのアクセスや活用案として参考にさせていただきます。
45	道路	県道には道路標識も必要である。	主要道路および分岐点には必要に応じて古墳の標識を設置する予定です。
46	道路・説明板	現地までの道路の整備、案内板の設置	
47	その他	16ページ4行目の鶴島山古墳群は、方上町ではなく西須賀町の間違い。	訂正させていただきます。
48	その他	古墳の高さを18m、16mとしているのは、海拔ではなく、濠や造出とか何かを基準にして比高を書くべきである。	わかりやすい表記に改めさせていただきます。
49	その他	市道から北東へ向いている畦道は平成初め頃まで円弧であった。市道もその続きで曲がっていた。道路はまっすぐつけるはずであるが、洪野丸山古墳の横は道も川も曲がっていた。即ち濠は盾形ではなく、前期古墳のように墳丘に沿って曲がっていた。これは当時からの市担当者も見て知っているはず。	これまでの発掘調査成果から、洪野丸山古墳の南側は周濠は盾形であったことを確認しています。
50	その他	古墳西側にある家へ上がっていく道は、昭和期の地図では古墳に沿った形跡が少しあったが、計画の測量図では道の方向が少し違っていると思う。	該当部分は、昭和期からやや改変がなされているようです。前方部に関しては、公有化完了後に今後改めて調査を行います。
51	その他	マンジョ塚の「マンジョ」は「ウマンジョ」の聞き間違いです。	マンジョ塚についてはすでに遺跡名として定着しておりますので、今後名称の由来などを説明するときにご指摘の内容を補足させていただきます。
52	その他	15ページ6行目の「山の斜面を利用してつくられた」とは？	マンジョ塚2号墳が平地に盛土をして造られた古墳ではなく、もともとあった山の上に造られた古墳であることを説明したものです。
53	その他	16ページ6行目の犬山天神山古墳は、「犬山天神山」ではなく「大野大崎山」が正しい。	山の名称についてはご指摘のとおりです。しかし、過去に犬山天神山古墳という遺跡名で発掘調査が行われており、今回はそのように表記させていただきました。今後名称の由来などを説明するときにご指摘の内容を補足させていただきます。
54	その他	21ページ3行目の地被類とは適切な名であるか。	「地被類」は、草丈が低く、地表面を覆うように生えた植物の総称です。
55	その他	周濠は、洪野丸山古墳の象徴的存在であり、古墳全体を理解する上で、極めて重要である。	周濠は、洪野丸山古墳を特徴づける重要な要素であると考えられます。整備時にも周濠の範囲や形状などをわかりやすく表示したいと考えています。
56	その他	災害時の避難場所にも応用できないか。	史跡の活用方法として参考にさせていただきます。
57	その他	少なくとも、関西からの古代・古墳ファンを集める意気込みで取り組むべし。	県外からの古代・古墳ファンにも訪れていただけるように、定期的な講演会や見学会の実施、また、これらの広報を充実させたいと考えています。